

令和6年度 学校関係者評価書（川南町立通山小学校）

令和7年2月4日

項目	評価指標 及び 具体的目標	自己評価 項目 総合	自己評価結果の考察・分析および改善策等	関係者評価 項目 総合	学校関係者評価委員の意見	
					項目	総合
I 町民が生涯を通じて学び、教育に参画する社会づくりの推進						
1	家庭教育支援の充実に努める。 ①家庭教育学級の充実 ②おやじの会との連携	3. 0	①上半期は実施できているが、あまり参加者がいなかった。中学校区の三校合同家庭教育学級も人数が集まらずに中止となった。今後も積極的な参加を促していく必要がある。 ②運動会の準備や当日の運営、片付けなどおやじの会に限らず保護者の協力をいただき、とても助かった。	2. 7	○様々な事情がそれぞれにあり、参加を募るのも大変だと思う。継続に向けての工夫も大切。 ○おやじ会との活動の場が増える事を望みます。 ○親子の対話が不十分と思われる家庭の支援が課題。	
2	学校や家庭、地域等が一体となって取り組む教育を推進する。 ①地域の人材・素材を活用した学習や行事等の充実 ②幼・保・中との連携・交流	3. 1 3. 3	①年間計画通り、地域人材・素材に助けられながら児童の健全育成が図られている。 ②国光原中学校との地域クリーン活動やレインボーサミットなどを夏季休業中に実施することができた。また、管理職として、児童に関する情報の共有や学校運営に関する情報の共有は図られている。幼稚園との連携では、担当同士での情報交換はできているが、全体としての交流が図られていないのでそこが課題である。	2. 9 3. 1	○お互いの連携・交流の場は、互いを知る上でも大切と思う。 ○通山地区コミュニティーセンター館長との話を増やすと活動の場ができやすいと思う。 ○地域の行事も少しずつ増えている。親子で参加する行事を増やしたい。	
II 社会を生き抜く基盤を培い、未来を担う人財を育む教育の推進						
1	読書活動を推進する。 ①教科等の学習における図書室の積極的活用 ②読み聞かせボランティアとの連携	2. 3	①図書館の図書購入及び活用については、計画的に進めている。 ②読み聞かせボランティアについてもほぼ計画通り実施できているが、本年度より昼休み時間に読み聞かせをしていただいているので低学年に偏っている傾向がある。次年度は教育課程にうまく位置づけられないかと検討しており、読み聞かせボランティアの方々の意向を確認しているところである。	2. 8	○保育園においても読み聞かせは毎日保育の中で行っている。子どもへの（子ども自身の）興味にもつながっていると思う。 ○読み聞かせ活動自体を低学年に絞ってもよいと感じました。 ○読み聞かせ活動は、ぜひ教育課程に位置付けてほしい。	
2	確かな学力を育む教育を推進する。 ①基本的な学習態度の育成 ②教員の授業力の向上 ③ICTを活用した授業づくりの推進	2. 9	①徐々に聞く態度が身に付いてきているが、学年によってばらつきがあるため、全学年で確認したことをどの学年でも実施できるように進めたい。 ②外部講師なども取り入れた校内研修を通してひなたの学びを意識した授業改善について研修し、授業力の向上を図っている。その研修を生かして、実施した一人一授業から成果と課題が見えてきたので、今後、どの部分を高めていく必要があるかを全員で確認していることができている。 ③ICT機器を授業に積極的に取り入れるとともに、効果的な活用が図られているが、紙媒体や板書等との効果的活用法について考えていく必要がある。	3. 1	○ICT機器の活用は、得手不得手があり理解度の異なる子を同時に指導するのは大変ではないかと思う。ICTも大切だが、紙媒体も大切にしていきたい。 ○聞く態度は学年になるにつれ、身に付いているように感じます。 ○授業の進め方に工夫が認められる。対話型学習のやり方も効果的である。	
3	人権を尊重し豊かな心を育む教育を推進する。 ①心のこもったあいさつ・返事の実践 ②人権教育の常時指導の充実 ③いじめ等の早期発見・解消 ④命を大切にする教育の推進	3. 0 2. 9	①委員会や各学年であいさつ運動に計画的に取り組むことができる。その中でも、第3学年が自発的にあいさつ運動に関する横断幕や旗を作成し、積極的にあいさつ運動に取り組む姿が見られるようになつた。あいさつ+1については、意識してできる児童ははづつ取り組めているが、なかなか+1にならないのが現状である。意識してできている部分については大いに称賛しているが、今後も継続的な課題である。 ②調査・教育相談を重視し、望ましい人間関係の在り方等についてどの学級でもしっかりと「かかわり」と「見届け」を行うことができている。また、児童の実態を十分に把握するため、アンケートの取り方や指導経過の把握の工夫をしているところである。 ③悩みアンケートや教育相談の結果を全職員で情報共有している。 ④夏季休業中に各学級における「いのちの教育実践」の報告会を実施し、人権教育の理解を深めるとともに、実践的指導力の向上を図ることができた。今後は、人権集会も行い、いのちについて学ぶ予定である。	3. 0 3. 1	○いのちは平等であり、優劣をつけてはならないもの。他者のいのちが大切であると同時に、自分自身も大切にしていくことを学んでもらいたいと思う。 ○登校時の校門でのあいさつ運動も効果がある。	
4	特別支援教育を推進する。 ①児童一人一人のニーズに応じた支援の充実 ②特別支援体制と関係機関との連携の充実	3. 4	①面談を通して、保護者の要望等をつかむとともに、児童の状況について、全職員で共有することにしている。また、管理職も積極的に授業や学級経営に関わり、指導方針を特別支援教育コーディネーターと確認しながら進めている。 ②SSWやSC、民生委員児童委員、特別支援エアリーコーディネーター等との連携を密にし、個に応じた指導を行なうとともに積極的に保護者と面談を行い、学校と保護者が一体となって教育を進めていくことの確認ができる。	3. 5	○さまざまな機関（人材）を活用し、個々にもっとも相応しい支援を提供していくことができればと思う。 ○一人一人の状況にあわせ取り組まれている。	
5	郷土を愛し地域社会に参画する態度を育む教育を推進する。 ①地域の人材・素材を活用した学習や行事の充実【再掲】 ②総合的な学習の時間におけるふるさと学習の充実	3. 0	①年間計画通り、地域人材・素材を活用しながら児童の健全育成が図られている。ふれあい参観日においても自治公民館長の働きかけもあり、地域の人材・素材の積極的な活用を図ることができた。 ②年間指導計画に基づいて学習を進めている。学校に講師をお招きしての授業や地域に出向いての授業など、ふるさと川南の自然、文化、産業等、そのよさを学ぶことができている。	3. 0	○地域社会があつてこそその学校だと思うが、相互扶助によって郷土愛が高めなければと思う。 ○活動の場が広がるのを期待します。 ○子どもの体験を通して、親も新たな発見があったとの保護者の声もあった。	
6	キャリア教育を推進する。 ①地元企業や人材等を活用した学習活動の推進 ②生き方教室の実施	2. 7	①地域に限定せずに様々な人材・素材を計画的に活用することができている。 ②年間指導計画に基づいて学習を進めている。今後、新たな人材発掘を行いながら、継続的な支援をお願いすることができるようになっていきたい。	3. 0		
7	社会の変化に対応した多様な人財を育む教育を推進する。 ①ICTを活用した授業づくりの推進【再掲】 ②対話的な学びの実践	2. 8	①ICT支援員や町教育委員会によるICT機器活用の研修を行うことができた。また、第6学年においては、県の研修センターから指導主事を派遣していただき、プログラミング教育も行なうことができた。 ②学習内容に応じて、対話的な学習活動が少しづつ取り入れられているが、まだ、教師主導型からの脱却が十分図られていない部分も見られる。今後、校内研究とも絡めていきながら、学び合いにつながる対話的な学習活動を積極的に取り入れていけるようにしていきたい。	3. 0	○対話的な学びの実践は大切だと思う。否定的な意見に対しても、それを攻撃するのではなく、いったん受け入れて、自分の考え（意見）を正しく話すことができる子が育ってくれればと願う。	
III 教育を支える体制や環境の整備・充実						
1	教職員の資質向上と働き方改革の推進に努める。 ①教職員の資質向上と働き方改革を推進する校時程の運用 ②学校における業務の見直し	3. 1	①放課後における教材研究の時間を確保することができている。 ②業務内容の見直しにより、廃止したり、簡略化したりすることで授業準備に充てる時間を確保していく。今後も質を落とさず、働き方改革に対する職員の意識を高めていく必要がある。	3. 1	○働き方改革によって教職員の向上は図ることができたと思うが、その事によって子ども側はどうなったのか、振り返りもしなければと思う。	
2	安全、安心な教育環境の整備・充実に努める。 ①緊急時の避難体制の整備 ②交通安全指導の徹底 ③校内の安全整備	3. 2 3. 4	①保護者への引き渡し訓練を含め、あらゆる避難訓練を計画通りに実施することができている。また、緊急時の安心・安全メールの活用を図ることができている。 ②交通教室や常時指導を通して、学年の発達の段階に応じた交通安全指導を徹底している。また、第6学年については、ハンドアップマイスターに任命されたので、今後、リーダーシップを發揮できるように促していきたい。 ③毎月の安全点検を計画的に行ない、危険箇所の把握を行なっている。その他、PTAと連携をして通学路の安全点検を行うことができた。	3. 0 2. 8	○校内ではきちんとされていると思うが、登下校において少し危険な行為をしている事があるのを見る。気付いた時は注意をしているが…。 ○保護者参加型の避難訓練の場が増える事が必要に感じます。 ○子どもの発達に応じた教育環境の充実、トイレの改善等、机・椅子の整備を“おやじの会”で取り組む等の取組も期待できる。	
IV 文化やスポーツに親しむ社会づくりの推進						
1	学校体育の推進に努める。 ①体育学習の充実 ②運動の習慣化 ③望ましい生活習慣の定着化	3. 2 3. 2	①各学年に応じて、体育科学習の時間における運動量の確保に努めている。 ②さわやか体操を計画的に実施したり、外遊びを奨励したりすることは継続的にできている。 ③望ましい生活習慣の定着化については、保健便り等を通して、家庭と協力しながら進めることができている。また、学校保健委員会では、家庭における性教育のあり方についても学ぶことができた。	3. 1 3. 1	○昨今、体を動かす事を嫌う子もあると聞く。思いっきり体を動かすことによって、体力もついていくと思う。	